第 3 回環境・利用部会（2003.4.10 開催）結果報告	2003.4.16 庶務発信

開催日時：2003 年 4 月 10 日（木）　13：30～16：35
場　　所：大津プリンスホテル　2 階　コンベンションホール　淡海 7・8（全体会議・水質班）／淡海 9（利用班）／淡海 10（自然環境班）
参加者数：委員 20 名、他部会委員 3 名、河川管理者 22 名、一般傍聴者 157 名

1　決定事項

第 4 回部会（4/17）は全体会議とし、各検討班リーダーから報告頂く内容や検討班間で相互に関連する問題等について議論する。

2　審議の概要

①今後の進め方について（全体会議）

部会長より説明があり、部会全体での今後の進め方等について確認された。

○部会長からの説明内容

各検討班で個々の具体策についても審議に入る。今後のスケジュールとして、次回部会（4/17）は全体会議とし、検討班間で相互に関連する問題等につき議論する。第 20 回委員会（4/21）では状況報告にとどめ、方向性提示をめざす。その後 2 回程度部会を開催し、第 20 回委員会にて提示される予定のダムに関する資料内容も踏まえてテーマ別部会の報告をとりまとめる。

②淀川水系河川整備計画策定に向けての説明資料（第 1 稿）に関する意見交換（検討班別）

自然環境、水質、利用の３つの検討班に分かれて資料 2-2「論点に関する前回部会（3/27）での主な意見・やりとり内容」等をもとに委員間や河川管理者との意見交換が行われた。各班の審議の内容は以下の通り。

○自然環境班

・川が川をつくる理念について：「ダイナミックに変動する河川を許容する十分な河川空間の必要性」「『川が川をつくっている』地区の保存の重要性」「最後の仕上げを川に任せる整備方法」「川が川をつくる、という理念を実現する技術開発としての森林保全」「普通種保全のための改善策が必要」「多自然型川づくりの反省」「ダムの放流による流況変動で川のダイナミクスを取り戻せないか」

・提言が目標としている「1960 年代前半」とは？：「人間や生物が許容できる範囲内で、ダイナミックに変化する川」「モニタリングとフィードバックによる順応的な対応」「モニタリングの技術開発と効果検証」

・具体的な整備内容について：「住民参加など仕組みが計画内容に反映されていないのではないか」「十分なモニタリングのためのスケジュールを明示すべき」

○水質班

・新たな水質管理・監視について：「施設整備から河川管理へ転換の可能性について」「河川管理者のリーダーシップによる水質マネジメントの実施」「モニタリングの実施と展開および人材育成の必要性」「浄化対策とそのＢ／Ｃ」「水供給と水の質」「水質調査の現状」

・水質改善のためのシステムづくり：「水質の統合管理システム構築」「他の主体との連携、琵琶湖・淀川流域水質管理協議会（仮称）の機能」「住民の水質に対するオーナーシップ意識の醸成」

・水質目標の設定について：「水質を幅広く捉えるべき」「河川で保持すべき独自の水質目標の設定」
その他、環境のためのコスト負担等について河川管理者と意見交換が行われた。

〇利用班
・説明資料（第 1 稿）の舟運に関する部分について河川管理者より説明が行われ、委員と河川管理者との間で意見交換が行われた。
・河川環境の保全と両立した河川利用のあり方について、「高水敷の利用（自治体や住民との連携、調整、河川利用のあり方、河川利用委員会）」、「漁業」、「水域利用」、「水陸移行帯（名称、合意形成等）」、「堤外民地・不法占拠」等の論点について委員と河川管理者との間で意見交換が行われた。

③一般傍聴者からの意見聴取（検討班別）
・自然環境班：なし
・水　質　班：一般傍聴者１名より「水質調査における DO と深さの重要性」「水質協議会等への要望」に関して発言があった。
・利　用　班：一般傍聴者１名より「高水敷のグランド利用の現状」「河道内にある樹木の伐採の方針」「河川利用委員会の実態」に関して発言があった。

以上

※このお知らせは委員の皆様に会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。